

令和7年度 文部科学省委託  
学校安全総合支援事業

# 「地域連携安全・安心推進事業」

— 実践事例集 —



拠点校：八郎潟町立八郎潟小学校  
八郎潟町立八郎潟中学校  
秋田県立五城目高等学校

秋田県教育委員会

## はじめに

阪神・淡路大震災から30年、東日本大震災から15年という大きな節目を相次いで迎える中、一昨年に発生した能登半島地震は、私たちに改めて「想定を超える災害への備え」の重要性を再認識させるものとなりました。

近年は、こうした地震災害に加え、全国で頻発する線状降水帯による集中豪雨など、その様相が極めて複雑化・多様化しています。過去の教訓を継承しつつ、新たな脅威への対応が求められる今、学校安全の在り方もまた、次なる段階へと進化させていく必要があります。学校と地域が日頃から双方向のネットワークを構築し、いざという時に地域全体で子どもを支えていく体制の強化、子どもたちが自ら危険を予測し、主体的に判断して行動できる力の育成が、学校安全に関する取組を進めていく上で、より一層重要な柱になっていくと考えております。

本課で実施してきました、「地域連携安全・安心推進事業」は、開始から8年が経過し、各モデル地域や拠点校においては、地域の実情に応じた創意工夫ある実践が行われてきました。これまでの成果を基盤として、今年度からは本事業を「発展期」と位置付け、新たに高等学校を拠点校に加えて、より広域的な連携体制の確立を目指して取り組んでまいりました。

今年度は、八郎潟町、五城目町をモデル地域とし、拠点校の八郎潟町立八郎潟小学校、八郎潟町立八郎潟中学校、秋田県立五城目高等学校には、地域住民や関係機関等と連携を図りながら、効果的な取組を実践していただきました。

県教育委員会といたしましても、今後、その成果を様々な機会を通じて全県に波及させるとともに、発達段階に応じた切れ目のない安全教育を展開することで、子どもたちが自分の命を自分で守るための確かな実践力を身に付けるとともに、災害時に地域を支える力になろうとする貢献意識を育むことができるよう、安全教育のさらなる充実を図ってまいります。

結びに、児童生徒と共に活動していただいた各校の中核教員をはじめ教職員の皆様、活動をご支援くださいました保護者や地域の関係機関の皆様、八郎潟町教育委員会の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

令和8年2月

秋田県教育庁保健体育課  
課長 野中 仁史

# 目次

はじめに

I	事業の説明	1
II	推進委員会の開催	3
III	実践委員会の開催	5
IV	拠点校の取組	
	八郎潟小学校	6
	八郎潟中学校	11
	五城目高等学校	16
	学校間・地域との連携 (①小中連携②中高連携③地域との連携)	19
	情報発信	29
V	中核教員の資質向上	30

# I 事業の説明

## 1 事業が行われることとなった背景

### (1) 東日本大震災の教訓

学校における防災教育を推進するためには、基礎的な知識の習得や避難訓練の確実な実施が重要であるが、さらに、地域住民や保護者、関係機関等からの協力の下、より実践的な内容にするための工夫や地域と連携した継続的な取組、教職員の実践的な研修の重要性が確認された。

### (2) 大阪教育大学附属池田小学校の教訓

学校の安全措置の状況確認や、組織として対応する仕組みができていなかったことなどが課題として挙げられた。この事件の検証のあと、池田小学校事件負傷者合意書が締結され、学校の設備や管理面のほか、児童への安全教育や教職員の実践的な研修の重要性が確認された。



## 2 事業の目的

事業の背景を踏まえ、地域連携安全・安心推進地域（以下、「モデル地域」という。）における学校運営協議会等を活用し、学校と地域が連携・協働する学校安全体制の構築を図る。

また、校種及び地域住民並びに専門的機関等と連携・協働した学校安全の効果的な実施に向けた計画の策定、それに基づく具体的な取組に対して支援や助言を行い、実践的で効果的な学校安全を推進する。

### 3 事業の内容

#### (1) 推進委員会の開催

事業の円滑な実施を図るため、モデル地域が主体となって行う事業計画の作成及び事業の実施に対し、大学関係者等の学識経験者、県教育委員会、関係市町村教育委員会、県総務部総合防災課により構成される推進委員会を開催し、指導や助言を行い事業の推進を支援する。

#### (2) 実践委員会の設置及び開催

当該教育委員会と拠点校が連携して、学校運営協議会の機能を活用した実践委員会を設置し、拠点校における事業の実施計画を作成するとともに、計画の実施に向けた組織等の整備や支援を行う。

#### (3) 拠点校における「学校安全学習会・発表会」の実施

学校や地域の実情を踏まえ、専門家による指導など、先進的な情報を活用しながら、地域・家庭・関係機関と連携・協働して災害リスクに応じた安全教育や避難訓練を実施する。

#### (4) 中核教員の育成に向けた研修の実施

拠点校の中核教員が、全国的な教職員研修会や学校安全の先進地視察へ参加し、資質や能力を高めるとともに、得られた成果については、モデル地域の学校において共有する。

#### (5) 学校安全の実践内容を普及啓発

事業の実施内容、成果、課題等について実践事例集を作成し、県内の市町村教育委員会や全小・中学校、高等学校等に配布して普及啓発を図る。

## Ⅱ 推進委員会の開催

### 第1回推進委員会

- 日 時 令和7年6月6日(金) 午後2時30分から4時まで
- 場 所 秋田県庁第二庁舎4階 高機能会議室

#### 令和7年度地域連携安全・安心推進委員

	所 属 及 び 役 職	氏 名
委員長	秋田大学情報データ科学部 教授	水 田 敏 彦
委 員	防災士	齊 藤 亜 希
委 員	八郎潟町教育委員会教育課 係長	小 林 玄 知
委 員	県総務部総合防災課 主事	今 野 克 洸
委 員	県教育庁義務教育課 指導主事	大 山 豊
委 員	県教育庁生涯学習課 社会教育主事	川 田 貴 之
委 員	県教育庁中央教育事務所 指導主事	久 米 美 樹
委 員	県教育庁保健体育課 課長	野 中 仁 史

県教育委員会は、モデル地域において、学校、地域、関係機関等と連携・協働した事業を円滑に実施できるよう、地域を所管する八郎潟町教育委員会、県総務部総合防災課及び学識経験者等を委員とする推進委員会を開催した。

今年度は、八郎潟町立八郎潟小学校と八郎潟町立八郎潟中学校、五城目高等学校を拠点校に本事業を実施することを確認し、各地域の担当者からは、事業の推進における取組の方針や地域の実情に応じた拠点校の実践内容について説明があった。

また、地域連携について、どのような関係機関等と連携していくかを説明し、各委員から関連する事業の紹介や取組について御意見をいただいた。

#### 第1回推進委員会の様子



## 第2回推進委員会

- 日 時 令和8年2月3日(火) 午前10時から11時30分まで
- 場 所 秋田県庁第二庁舎4階 災害医療対策室

今年度の取組について事務局から事業報告をするとともに、各拠点校の担当から成果と課題について報告があった。また、各委員から事業への御意見をいただき次年度の取組に向けた参考とした。

### 【成 果】

- ・各校の実情に応じた学校安全に係る取組を、地域と連携しながら進めることができた。外部の専門家を活用した効果的な安全教育の実践を通して、児童生徒や地域全体の防災意識の向上を図ることができた。
- ・中核教員の先進地視察や有識者による校内研修を実施することで、教職員全体の学校安全に関する資質向上を図ることができた。

### 【課 題】

- ・発達段階が進むにつれ、知識の習得だけでは防災意識の醸成が困難になる傾向がある。地域と連携した訓練や体験活動を通して、共助の担い手としての意識を高めるとともに、子どもの視点を生かした活動を積極的に取り入れることで、主体的な学びにつなげていくことが重要である。

### 【総 括】

今年度、モデル地域の八郎潟町、五城目町では、多岐に渡る実践的な安全教育が展開された。

気候変動等の影響で災害リスクがさらに高まることが予想される中、各学校においては実情に応じた実効性のある避難訓練や、防災を自分事として捉え、自ら行動できる力を育む教育を一層推進してもらいたい。

本事業の実践は、災害時に地域を守る大きな支えになると感じている。一過性のもので終わらせることなく、継続した取組として定着を図ってほしい。

### 第2回推進委員会の様子



### Ⅲ 実践委員会の開催

#### 第 1 回実践委員会

令和 7 年 7 月 1 日(火) 八郎瀧町

令和 7 年 7 月 9 日(水) 五城目町

各モデル地域において、学校評議員や地域の関係機関の担当者を委員とした実践委員会を開催した。拠点校の中核教員が実施計画について説明を行い、各委員から専門的な知見に基づいた助言をいただいた。地域が一体となった取組における連携の在り方について、改めて共通理解を図ることができた。

#### 第 2 回実践委員会

令和 8 年 1 月 23 日(金) 八郎瀧町

令和 8 年 1 月 27 日(火) 五城目町

中核教員から、今年度実施した学校安全に関わる取組について報告があった。参加者からは、地域全体の防災意識の高まりを評価する多くの意見が寄せられた。課題について共有するとともに、今後も継続した取組を進めていくことを確認した。

実践委員会の様子



## IV 拠点校の取組

### 【八郎瀧小学校】

#### ◆ 交通安全

令和7年4月16日(水)

### 交通安全教室

五城目警察署、八郎瀧駐在所、八郎瀧町交通指導隊の協力を得て、発達段階に応じた交通安全教室を実施した。

「通学路の安全な歩行」(1・2年生)



「自転車の交通ルール」(3・4年生)



「自転車乗車時のヘルメット着用」(5・6年生)



## ◆生活安全

令和7年6月27日(金)

### 防犯教室

秋田臨港警察署少年サポートセンターの協力を得て、不審者から身を守るための行動や、SNSの適切な使用法と依存症の危険性等について学習した。

「不審者対応の仕方とゲーム等のメディアの使い方について」(1・2・3年生)



「ネットトラブルの未然防止について」(4・5・6年生)



## ◆災害安全

令和7年7月8日(火)

### 引渡し訓練

緊急時に備えた引渡し訓練を実施し、手順等について保護者と共通理解を図った。



## ◆ 災害安全

### 校外学習

4年生が、由利本荘市にある秋田県防災学習館を訪れ、地震の揺れや火災の初期消火、煙の中を歩く煙中体験など、様々な体験を通して、自分の命を守るための行動について学習した。

6年生は修学旅行で宮城県の震災遺構仙台市立荒浜小学校を訪れ、東日本大震災の当時の状況や被災した方々の思いを聞き、震災についての学びを深めた。

● 令和7年9月16日(火)

秋田県由利本荘市「秋田県防災学習館」 4年生



● 令和7年9月11日(木)～12日(金)

宮城県仙台市「震災遺構仙台市立荒浜小学校」 6年生



## ◆ 災害安全

令和7年9月26日(金)

### 防災教室「自分の命は自分で守る」(4年生)

慶應義塾大学 准教授 大木 聖子 氏を招いて地震発生時の身の守り方を学んだ。状況に応じて自ら考えて行動することの重要性について実践を通して理解を深めた。

教室の写真を使った「危険さがし」



指示がなくても行動



教室以外の場所でも実践



2グループに分かれて互いの避難行動を観察し、気づきを共有



令和7年9月26日(金)

## 教職員研修「探究型訓練で育む新しい時代の資質・能力」

放課後に実施した教職員研修では、これまでの形式的な避難訓練ではなく、停電や余震の発生、けが人が出るといった状況を想定した、実践的な訓練について講義・演習が行われた。

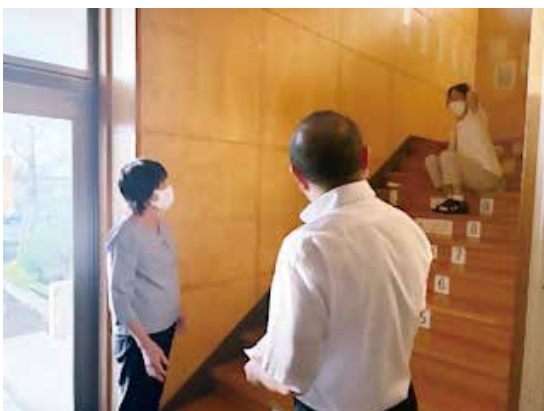
大木氏の講話



グループ演習



「けが人封筒訓練」の実践



「けが人カード」



### ※けが人封筒訓練

学級担任等が避難訓練開始と同時に、事前に配布された封筒に入っている「けが人カード」を見て、状況に応じた対応を行う実践的な訓練。

## 【八郎潟中学校】

### ◆交通安全

令和7年4月10日(木)

### 交通安全教室（1年生）

五城目警察署の協力を得て、自転車の安全点検や自転車乗車時の交通ルールの確認等を行った。



### ◆生活安全

令和7年11月14日(金)

### 救急救命教室（3年生）

湖東地区消防署の協力を得て、救命救急講習を実施し、AEDの使用方法や心肺蘇生法について学んだ。



## ◆ 災害安全

令和7年5月9日(金)

### 校外学習（1年生）

小学校と同様に秋田県防災学習館を訪れ、体験学習等を通して防災に関する実践的な知識や技能を習得することができた。

初期消火体験



地震体験



通報体験



煙中体験



防災クイズ



防災シアター



## ◆ 災害安全

令和7年6月12日(木)

### 防災教室（1年生）

防災士 齊藤 亜希 氏を招いて、地域で起こり得る災害や、過去の災害から学ぶことの重要性等について理解を深めた。また、災害時に家族や地域のためにできることを考え、防災に対する意識を高めた。



## ◆ 災害安全

令和7年10月16日(木)

### 防災教室 (1年生)

栄養教諭による指導の下、災害時を想定した炊飯実習を行った。災害時に活用できる『学校給食用非常食』の実食も体験し、各家庭の状況に応じた備えの重要性を学んだ。





## 【五城目高等学校】

### ◆ 災害安全

令和7年8月19日(火)

### 山岳救助訓練（2・3年生）

五城目町消防署、五城目警察署が合同で行っている山岳救助訓練に、キャリア教育も兼ねて希望する生徒が参加した。災害時の救助の困難さや、迅速な救助体制を間近で感じることができ貴重な体験となった。



## ◆ 災害安全

令和7年10月29日(水)

### 五高防災デー

五城目町住民生活課、秋田県総合防災課、大館少年自然の家の協力を得て、全校生徒が災害時を想定した様々な体験活動を行う「五高防災デー」を実施し、防災に関する意識を高めた。

- |            |                             |
|------------|-----------------------------|
| ・五城目町住民生活課 | 講話「災害時における避難所としての五城目高校の役割」  |
| ・秋田県総合防災課  | 学校安全外部指導者派遣事業「避難所運営訓練（HUG）」 |
| ・大館少年自然の家  | あきた県庁出前講座「防災教育」             |

#### 【五城目町住民生活課】

##### 講 話



#### 【秋田県総合防災課】

##### 避難所運営訓練（HUG）・防災備蓄食料の実食体験



【大館少年自然の家】  
テントの設営・撤収



毛布担架（簡易担架の製作）体験



新聞紙等を使用したスリッパ製作



## 【学校間・地域との連携 ①小中連携】

令和7年6月12日(木)

### 防災教室（小6・中1）

日本赤十字東北看護大学 講師 及川 真一 氏を招いて、小学校6年生と中学校1年生が避難所開設の体験学習を行った。体験を通して、一人一人が避難所で自分にできる役割について考え、「共助」の意識を高めた。

及川氏の講話



段ボールベッドの組み立て



毛布の効果的な活用



## 簡易テントの設営



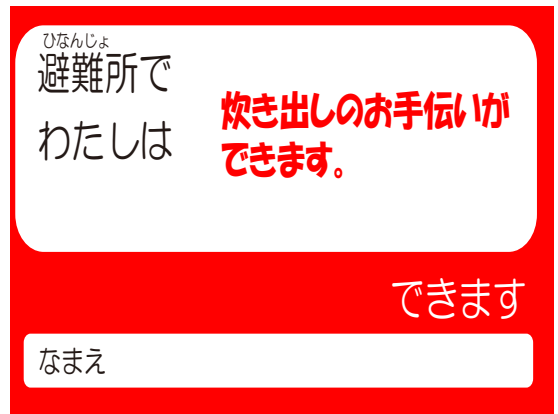
## 完成した簡易テント



## 簡易ベッドの紹介



## 自分にできることを考えて記入した「できますゼッケン」の発表



令和7年9月11日(木)

## 防災教室（小4・中1）

自衛隊の協力を得て、小学校4年生と中学校1年生が防災に関する体験学習を行った。保護者も参加し、身近な物品を使用した応急処置法や災害時の自衛隊の活動等について学んだ。

止血法



簡易担架



ロープワーク



特殊車両展示



自衛隊の活動紹介



## ◆小中合同避難訓練

児童生徒が主体的に訓練に取り組めるように、事後学習において改善点等を話し合う場を設け、そこで出された意見を次の訓練計画に反映させた。また、より実践的な訓練になるように、停電やけが人の発生等、様々な想定を取り入れて実施した。

令和7年5月7日(水)

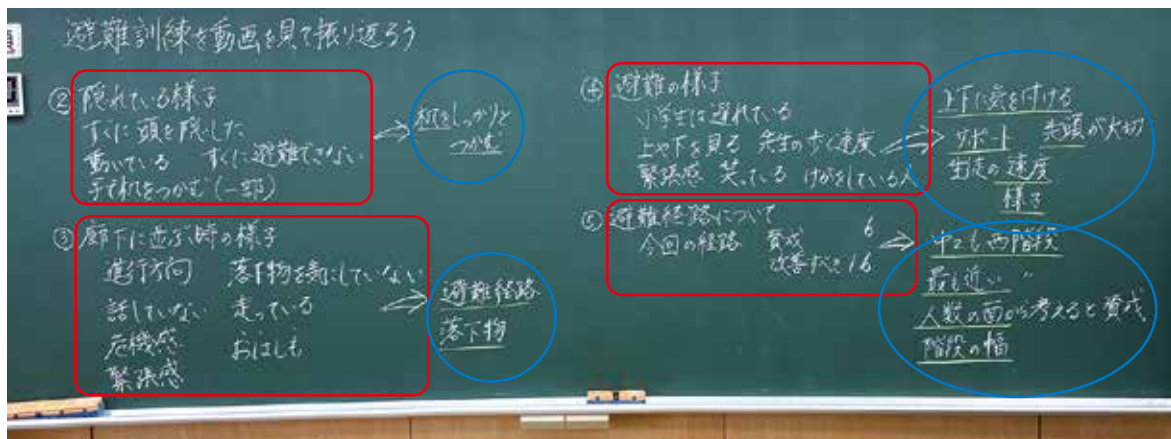
## 地震・火災想定訓練



訓練の様子を動画で確認



良かった点や改善点を共有



令和7年9月29日(月)  
地震想定・ブラインド訓練

身を守る行動を児童生徒が自ら考えて実践



令和7年1月27日(火)  
地震想定訓練

けが人や停電の発生、避難場所の変更等を想定して実践



## 【学校間・地域との連携 ②中高連携】

令和7年9月17日(水)

### 浸水想定訓練

五城目警察署・秋田県警察本部警備部機動隊の協力を得て、五城目高等学校の1・2年生と八郎潟中学校の1年生が県警機動隊の指導の下、八郎潟町B & G海洋センターで浸水災害を想定した避難訓練を行った。訓練では浸水時の歩行や救助法等を体験した。

県警機動隊の講話



注意事項の確認



水深10～20センチの状況を体験



長靴に水が入った際の歩きのくさを体験



棒を使って足元を確認



救助の体験



救命ボートの体験



## 【学校間・地域との連携 ③地域との連携】

令和7年11月19日(水)

### 防災フェスin八郎瀧

八郎瀧町が行っている安全・安心フォーラムで「防災フェスin八郎瀧」を開催した。八郎瀧小・中学校や地域の関係機関、外部機関等が連携して、災害に関する12のブースを設けた。子どもたちは縦割り班で活動し、授業で学習した学年が案内役となって学びを全校に広げた。

児童生徒のほか、八郎瀧たいようこども園の園児や保護者も参加し、災害時に役立つ様々な体験を通して地域全体の防災意識を高めた。

開会式



【小・中学校教員・役場職員】

地震災害時の動画視聴・一次避難体験



防災クイズ



災害時の新聞紙活用



【日本赤十字東北看護大学】  
避難所体験（簡易テント・段ボールベッド）



【自衛隊秋田地方協力本部】

簡易担架



止血法



ロープワーク



災害に関するパネル展示



特殊車両展示



自衛隊の活動に関するVR体験



制服試着



土のう作成・土のう積み



【湖東地区消防署】  
心肺蘇生法



消火体験



## 【情報発信】

学習を通して学んだことを、学習発表会や文化祭を通して、全校の児童生徒や保護者に向けて発表した。防災学習交流会では、小学生と中学生と一緒に1年間の学習をまとめ、意見交流を行った。

令和7年10月25日(土)

### 学習発表会（八郎瀧小学校）



令和7年8月30日(土)

### 八中祭（八郎瀧中学校）



令和8年2月6日(金)

### 防災学習交流会（八郎瀧小・中学校）



※五城目高等学校は事業継続のため、来年度、新1年生に向けて発表を行う。  
※中核教員は、令和8年度災害安全指導者研修会において実践発表を行う。

## V 中核教員の資質向上

最新情報の収集や実践的な知識を習得できる研修会に参加し、学校安全の充実を図るための資質や能力を高めた。

### 1. 令和7年度学校安全指導者養成研修（茨城県つくば市）

- ◇期 日：令和7年10月8日（水）から10日（金）
- ◇主 催：独立行政法人教職員支援機構
- ◇共 催：文部科学省

学校安全の3領域に関して必要な知識を習得するとともに、研修会等において、具体的な実践例を紹介しながら指導助言等を行うことができる中核教員としての資質・能力を高めた。

### 2. 令和7年度災害安全指導者研修会

- ◇期 日：令和7年9月4日（木）
- ◇主 催：文部科学省・秋田県教育委員会
  - ・男鹿市 観光文化スポーツ部 文化スポーツ課  
副主幹 五十嵐 祐介 氏  
ジオパーク専門員 高尾 美可子 氏  
演題「男鹿半島の災害を語り継ぐ～ジオパークと防災教育」
  - ・地域連携安全・安心推進事業実践発表 令和6年度拠点校  
仙北市立桧木内中学校 教諭 門脇 昭成 氏  
仙北市立桧木内小学校 教諭 伊藤 和恵 氏
  - ・防災士 斉藤 亜希 氏  
演題「避難所運営の第一歩～発災後の初期対応を体感する～」
  - ・実践的な安全教育について  
秋田県教育庁保健体育課

男鹿市職員の講話



桧木内小・中学校の実践発表



斉藤氏の演習



保健体育課の解説・演習



### 3. 学校安全指導者研修会

◇期日：令和7年11月27日(木)・28日(金)

◇会場：熊本県南阿蘇村、山都町、熊本市

◇主催：文部科学省

1日目は、熊本市内の学校の視察や熊本地震震災ミュージアムK I O K U、旧東海大学阿蘇キャンパス等を見学し、平成28年に起きた熊本地震と令和2年の豪雨の甚大な被害について理解を深めた。

2日目は、災害時における学校現場の対応や心のケアの在り方等に関する講話、学校事故対応に関する実践的な演習が行われた

#### 【1日目】

熊本市立砂取小学校の視察



熊本県立矢部高等学校の視察



「熊本地震震災ミュージアムKIOKU」の展示・語り部による説明



被災した旧東海大学阿蘇キャンパス



崩落した旧阿蘇大橋



【2日目】

熊本大学 教授 竹内 裕希子 氏  
熊本地震・豪雨の被害と現場対応



震災に関連した書籍



奥能登教育事務所所長 山岸 昭彦 氏  
能登半島地震における学校現場の対応



武蔵野大学 名誉教授 藤森 和美 氏  
事故・災害発生時の心のケア



事故・災害後の事後対応についてのグループ演習



#### 4. 令和7年度全国成果発表会（オンライン）

◇期 日：令和8年2月5日（木）

◇主 催：文部科学省

◇基調講演

石川県輪島市教育委員会 教育長 小川 正 氏

演題「災害を通して得られた教訓

～『能登半島地震・奥能登豪雨』二度の大規模災害を経験して～」

◇実践発表

石川県教育委員会

「県立学校における災害対応力の強化に向けて」

山形県教育委員会

「大雨災害の対応に向けた学校防災について

～防災アドバイザー派遣事業の取組を通して～」

宮崎県教育委員会

「自分と地域を守るための交通安全の取組について

～みやぎの子どもたちの命を守るヘルメット着用推進プロジェクトを通して～」

#### 5. 全国学校安全教育研究大会

◇期 日：令和8年2月6日（金）

◇会 場：東京都調布市立富士見台小学校

◇主 催：全国学校安全教育研究会・東京都学校安全教育研究会

◇後 援：文部科学省 他

◇大会主題

「自他の生命を尊重し、安全のための行動ができる幼児・児童・生徒の育成  
－危険を予測し、自ら回避できる能力を育成するために－」



令和7年度文部科学省委託  
学校安全総合支援事業  
「地域連携安全・安心推進事業」実践事例集

---

令和8年2月発行 秋田県教育委員会

〒010-8580 秋田市山王三丁目1番1号  
電話 018-860-5204 FAX 018-860-5207



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます